



風水害等に備えて

大雨情報をキャッチ！こんなときのわが家の安全対策



大雨注意報・警報・特別警報(浸水害・土砂災害)の発表基準

下記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発令されます。

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

●雨の強さと降り方

(単位:mm/時)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
「やや強い雨」 「ザーザーと降る」 雨の音で話し声がよく聞き取れない。	「強い雨」 「どしゃ降り」 ワイパーを速くしても見づらい。側溝や小さな川があふれる。	「激しい雨」 バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、かけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	「非常に激しい雨」 滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。マンホールから水が噴出する。かけ崩れが起こりやすい。多くの災害が発生する。	「猛烈な雨」 息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

●台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。



台風の大きさと強さの目安

大きさ	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上～

強さ	最大風速(m/秒)
強い	33m/秒以上～44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上～

●集中豪雨

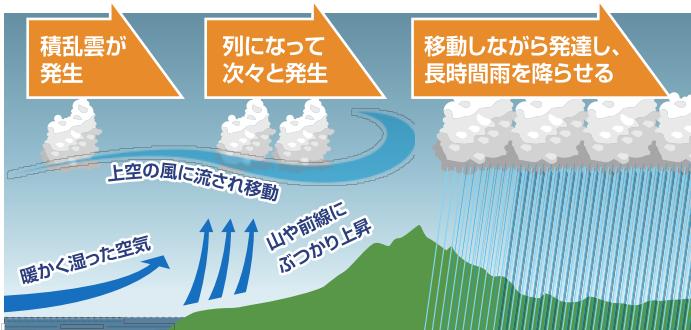
集中豪雨は、前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより発生します。激しい雨が数時間にわたって降り続き、河川の氾濫や土砂災害などによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ★ラジオやテレビなどの気象情報に注意をする。 ★非常時持ち出し品を準備しておく。
- ★飲料水や食料を最低でも3日分、できれば1週間分確保しておく。
- ★町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。 ★早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常に備える。 確保しておく。
- ★停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。 ★浸水に備えて家財道具は高い所へ移動する。 ★危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

●線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域。

線状降水帯の多くは暖候期に発生し、大きな災害の要因となる集中豪雨を引き起こすことがあります。



●水害時の心得

被害の軽減

扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



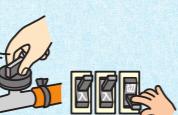
避難の呼びかけに注意を

危機が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声掛けしながら避難しましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



避難所までの移動

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。風雨が激しくなる前に車両または徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたときは浸水のおそれがあるので車両ではなく徒歩で避難しましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色のものがよいでしょう。



水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上の行動を心がけましょう。



歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上にならなければ高い場所で救助を待ちましょう。



●川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

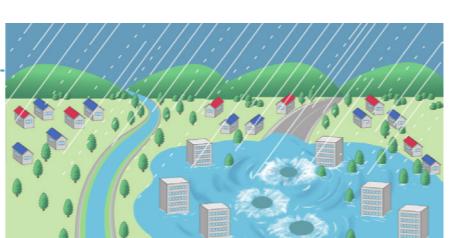
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周囲から流れ込んだ水がはけきれず溜まって起きる洪水。的確なタイミングで警報や避難指示を出すのが難しいため、注意が必要。



●浸水の深さについて



少しでも異常を感じたら、すぐに避難しましょう。

●土砂災害の種類

突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまう土砂災害は、大きく3種類に分けることができます。

■がけ崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲になる人も多い。



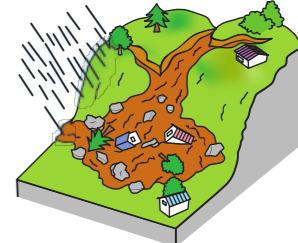
■地すべり

脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなったりした斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、人家や道路などに大きな被害をおよぼす。



■土石流

谷や斜面にたまつた土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一緒に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。



土砂災害から身を守るために

土砂災害の危険がせまったときには、すばやく避難することが大切です。いつもと違う大雨が降っているときには、避難準備をし、避難する覚悟をしてください。以下のような事象はすでに土砂が流れ出している可能性がありますので、垂直避難など命を守るために避難を開始してください。

主な前兆現象

- がけからの水がにごる
- 地下水やわき水が止まる
- 斜面がひび割れ、変形がある
- 小石が落ちてくる
- がけから音がする

主な前兆現象

- 地面にひび割れができる
- 井戸や沢の水がにごる
- がけや斜面から水がふき出す
- 家やよう壁に亀裂が入る
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く

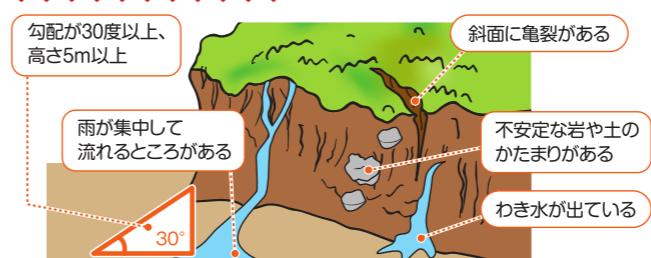
主な前兆現象

- 山鳴りがする
- 雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
- 川の水がごつたり、流木が混ざりたりする

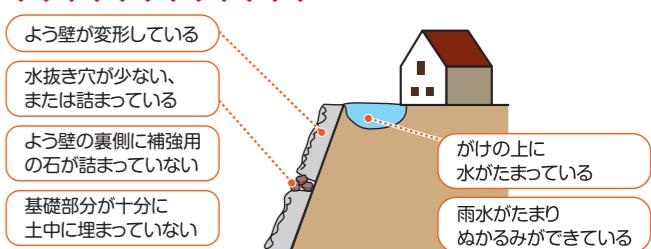
●危険箇所をチェックしよう

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

こんながけに注意!!



こんなよう壁に注意!!



●土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨により土砂災害の危険度が高まった時に、気象庁と千葉県が共同で発表する情報です。情報は市町村単位で発表され、町の防災活動や避難指示等の判断を支援し、住民の皆さんの自主避難の判断にも利用できます。自宅近くが土砂災害(特別)警戒区域に指定されている場合は、非常に危険な状態になりますので、早めに避難をしましょう。

気象庁

<http://www.jma.go.jp/jp/dosha/>



千葉県土砂災害警戒情報システム

<http://dosyabo.bousai.pref.chiba.lg.jp/>



●イエローゾーン・レッドゾーン

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

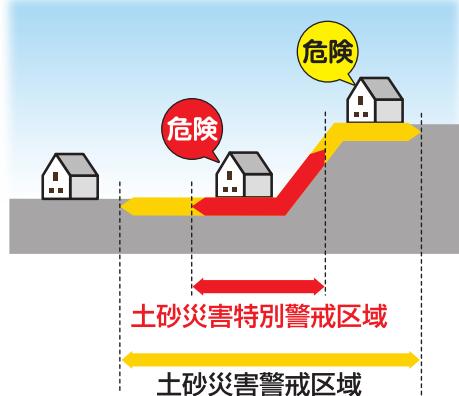
土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、土砂災害防止法※に基づき、千葉県が指定しています。 ※土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



●避難行動のポイント

- 1.P8の土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
- 2.土石流やがけ崩れの起こる方向に対して横方向に避難(①水平避難)する。
- 3.夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山と反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(②垂直避難)することも考慮しましょう。
- 4.土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。
- 5.記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。



●竜巻に関する情報

■竜巻とはこのような現象です

- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。
- ろうと状や柱状の雲を伴っています。
- 台風、寒冷前線、低気圧などに伴って発生します。
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。
被害は、長さ数km、幅数十～数百mの狭い範囲に集中します。
- 移動スピードが非常に速い場合があります。過去に発生した竜巻の中には、時速約90km(秒速25m)で移動したものもあります。

■竜巻の発生時に、よく現れる特徴

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。



■もしも「竜巻が間近に迫ってきたら」

すぐに身を守るために行動をとってください。
一番良いのは、頑丈な建物の中に避難することです。

屋内にいる時は…

- 窓から離れる。大きなガラス窓の下や周囲は危険

屋外にいる時は…

- 建物の中に避難する。ただし、物置、車庫、プレハブ（仮設建築物）などは危険なので避ける
- 電柱や樹木は倒壊する可能性があるので近づかない

●竜巻注意情報について

■竜巻注意情報(気象庁)

<http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

竜巻注意情報は、積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風に対して注意を呼びかける情報で、雷注意報を補足する情報として、各地の気象台等が担当地域を対象に発表します。**有効期間を発表から1時間**としていますが、**注意すべき状況が続く場合には、竜巻注意情報を再度発表します**。この情報は防災機関や報道機関へ伝達するとともに、気象庁ホームページの「気象情報」ページでお知らせします。**発達した積乱雲の近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。**

■竜巻発生確度ナウキャスト

気象庁・防災気象情報

常時(10分毎)

ナウキャストで詳細な領域を把握できます。
激しい突風が発生する可能性が高い領域を**2段階の発生確度**で表します。

PC

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

携帯電話

<http://www.jma.go.jp/jp/bosaijoho/m/radnowc/>

※携帯端末でご覧になる場合は、国土交通省防災情報提供センター（携帯端末用）から「気象ナウキャスト」を選択してください。